

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学医学部における国際保健医療協力

メタデータ	言語: 出版者: 琉球医学会 公開日: 2010-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柊山, 幸志郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016089

琉球大学医学部における国際保健医療協力

琉球大学医学部長 柗山幸志郎

(琉球大学医学部内科学第三講座)

琉球大学医学部は、全国の国立大学医学部の最後の学部として昭和54年に設置された。昭和56年には第1回の入学生を受け入れ、昭和62年にその卒業生を世に送り出した。以来、早いもので今年で14回目の卒業生を送り出すことになる。

本医学部は、医育機関として良医を育成するということは無論のことであるが、その創設の理念に「南に開かれた国際性豊かな医学部」ということを謳っている。すなわち、東南アジアを主とする諸外国との学術交流を促進し、国際保健医療協りに積極的に寄与することを謳ったものである。周知のように、沖縄は地理的に中国や東南アジアに非常に近い位置にあり、歴史的にも日本の本土と東南アジア、中国、その他外国との貿易交流の中継基地として栄えてきた。

沖縄の人々は大変人情味豊かで親切である。例えば、沖縄の言葉で「いちゃりばちよーでー」という言葉があるが、これはたった1度だけ出会った人でも皆兄弟であるということの意味している。また、「ゆいまーる精神」というのもあり、これは相互扶助を意味している。このような沖縄の親しみ深い気質といったものは、上に述べたような地理的、歴史的背景から生まれてきたものであるが、外国から来た人々にとっては大変馴染みやすく、すぐに落ち着いて勉強や仕事ができる雰囲気を作り出していると言われる。琉球大学医学部が、その創設理念に南に開かれた国際性を謳ったのも、このよう

な沖縄の地理的な、あるいは歴史的な事実に基づいている。

当医学部では、これまでに文部省の科学研究費補助金による海外学術研究、大学間学術交流協定に基づく研究交流、国際協力事業団（JICA）の医療技術協力など、いろいろなかたちでの国際交流、国際協力を進めてきた。その内容として東南アジア地域における感染症対策、それらの疾病媒介昆虫の調査・研究、毒ヘビ咬症の研究協力などをあげることができる。それらのなかで、これから紹介するラオス国での公衆衛生プロジェクトは、JICAによるプロジェクト方式技術協りに本学医学部が挙げて取り組んだ初めての国際医療協力活動である。その詳細が本特集号で紹介されるが、その成果を踏まえ1999年10月からは同国における新たな病院改善プロジェクトにさらに協力していくことになった。

周知のように、大学審議会は、21世紀の大学改革を目指した答申のなかで「競争的環境の中で個性が輝く大学」を謳っている。本医学部としても、国際性豊かな医学部の理念を実践し、その特徴をもって大学としての存在を世に問うことが必要である。今後も、このような国際医療協力の面で一層の努力が必要となる。

2000年3月